子どもの栄養改善 1000 日アプローチプロジェクト（第 2 期）
2022 年度報告書

（認定特活） シェア＝国際保健協力市民の会

＜プロジェクト概要＞
地域：プレアビヒア州トゥバエンミエンチェイ郡保健行政区の 4 ヶ所の保健センター管轄区（39 村）
直接対象者：トゥバエンミエンチェイ郡保健行政区の 4 ヶ所の保健センターとそのスタッフ 48 名、保健ボランティア 80 名、自治体女性子ども委員会(州、郡およびコミューン各レベル)11 名、計 131 名
間接対象者：上記 4 ヶ所の保健センター管轄区の 2 歳未満の乳幼児約 1,100 名とその養育者、および妊産婦 890 名
プロジェクト目標：コミュニティでの子どもの健康増進活動定着により、2 歳未満児の栄養状態が改善される。

【2022 年度の実績と成果】

2022 年は、「地域住民が主体となり、乳幼児健診や離乳食教室を自主的に運営する」ために、身に着けたスキルを活用しながら、現地住民が乳幼児健診や離乳食教室を現地の人々の手で運営していくことにフォーカスした以下の 3 つの活動を軸に展開してきました。

1.「女性子ども委員会が子ども健康増進活動を管理できる」

活動している 39 村において、乳幼児健診と離乳食教室の実施と運営面のサポートを実施しました。女性子ども委員会や保健センター管理委員会での活動報告・共有を行いながら、女性子ども委員会の年次計画や予算作成会議にも出席し、具体的な実施スケジュールや予算獲得までのサポートも行いました。

その結果、女性子ども委員会の年次計画会議や予算作成会議で、乳幼児健診や離乳食教室の実施スケジュールや予算を獲得についての支援を通して、すべての集合村において、離乳食教室の予算獲得ができたほか、1/8 のコミューンで女性子ども委員会が、保健センタースタッフ・保健ボランティアと相談しながら、乳幼児健診・離乳食教室の実施する日程や場所の調整をおこなうことができました。

女性子ども委員会で乳幼児健診・離乳食教室の運営についての会議	女性子ども委員会による離乳食教室

2.「妊産婦・養育者が適切な子どもの栄養行動が取れる」

5 歳未満の子どもを対象として、1 回以上の乳幼児健診と離乳食教室を実施し、乳幼児健診に来た妊産婦やお母さんたちへ、保健教育や離乳食教室を通じて、栄養をとってもらうことの大切さを伝えました。また、子どもとお母さんたちの栄養行動は同じ傾向にあり、低栄養の子どものお母さんも低栄養である傾向が高いことから、お母さんたちにもしっかりと栄養の大切さを理解してもらうために、お母さんたちの BMI の測定も実施しました。また、特に病気になった時の子どものケアついて、保健教材の内容を補充するために、州保健局との協議も実施しました。

乳幼児健診に参加した養育者に保健教育を実施	お母さんたちの身長計測（BMI 計算）

3.「低体重児のフォローアップが改善される」

コロナを経て、重度の低栄養の子どもの治療の必要性が見えてきたことから、低栄養の子どもによりフォーカスした活動を追加して実施しました。重度の栄養不良の子どもへの家庭訪問も行い、母乳が出ないお母さんへの粉ミルク支援等も行いました。現在、栄養不良児の治療食としてもつかわれる栄養補完食のトレーニングの実施や乳幼児健診の際に持ち込みができるように働きかけを実施。

重度の低栄養の子どもの個別訪問と粉ミルク支援